Hiroshima Animation Letter vol.11

広島アニメーション だより

広島のメディア芸術を発信する情報誌

特集1

アニメーション映画『この世界の片隅に』待ち望まれてついに公開、大ヒット続く！

©こうの史代・双葉社／「この世界の片隅に」製作委員会

「すずさん」の物語が共感よぶ〜わたしは ここで生きている。〜

広島・呉を舞台にしたアニメーション映画『この世界の片隅に』（脚本・監督 片渕須直、原作 こうの史代）が 2016 年 11 月 12 日（土）ついに公開のときを迎えました。6 年に渡る制作期間を経て完成した作品は、主人公「すずさん」の暮らしを丁寧に描いた物語が共感をよび、公開後 4 週を過ぎてもなお観客動員が増え続ける異例の大ヒットが続いています。

広島国際映画祭で“ヒロシマ平和映画賞”受賞など評価高まる

公開日と同時期開催の広島国際映画祭では、その最終日 13 日に特別招待クロージング作品として上映。さらにこの 2016 年創設の“ヒロシマ平和映画賞”を受賞。広島国際映画祭はその前身にあたるダマー映画祭 in ヒロシマ 2012 のときから片渕監督のワークショップを毎年実施しており、5 年目のレッドカーペット実現となりました。10 月下旬には文部科学省特選（青年向き、成人向き、家庭向き）、11 月中旬には広島県推奨、12 月に入りヨコハマ映画祭では 2016 年映画ベストテン 1 位と作品賞、そして審査員特別賞に主演のんさんが選ばれるなど、評価が高まっています。

ファンの応援に支えられ小規模公開で異例の週末観客動員ランキング

この映画は、当初は上映劇場数 63 館という小規模公開ながら公開初日・2 日目の週末観客動員で 10 位にランクイン。第 2 週も 10 位をキープ。第 3 週には 6 位、第 4 週には 4 位までランクアップ。10 位以内の他の映画がどれも 150 館以上ですので、この映画の異例のヒットが分かります。2015 年春に行われたクラウドファンディングを契機として、SNS を中心にクチコミ応援を続けてきたファンが劇場へ足を運び、大ヒットを支えています。

片渕監督も主演のんさんとともに舞台挨拶で日本中を駆け巡り、応援の声に応えています。広島には 11 月 13 日、八丁座、バルト 11、T ジョイ広島に登場。また、12 月 8 日には大ヒット御礼として監督が再訪。満席の呉ポポロ、八丁座では観客から「監督、おかえりなさい！」の声もかかりました。

【広島県内上映劇場】
呉ポポロ（11/12 〜）、八丁座（11/12 〜 12/9）、サロンシネマ（12/3 〜）、バルト 11（11/12 〜）、T ジョイ東広島（11/12 〜）、福山駅前シネマモード（11/12 〜 12/9）、福山エーガル 8 シネマズ（12/3 〜）、シネマ尾道（2/25 〜）

コラボ商品で地元企業も応援

広島の地元企業もコラボ商品を次々と発売しています。
○キャラメルもみじ　○焼きのり（広島県産のり使用）
○日本酒　○万年筆インク　などの商品特徴と映画のストーリーが連動。キャラメルソースを練り込んだもみじ饅頭は幼いすずさんが森永キャラメルを お土産に買うことから。焼き海苔はすずさんの実家が海苔養殖を営んでいたことから。日本酒は映画にも 登場する蔵元が限定ラベルで。万年筆のインクも映画に印象深く登場。原爆ドーム横のおりづるタワーにコラボ商品コーナーが設置され、観光客や市民へアピールされました。

アニメーション映画『この世界の片隅に』待ち望まれてついに公開、大ヒット続く！

映画の見方が世代を越えて拡がる

この映画はアニメ映画にしては幅広い年齢層に観られていると伝えられます。親や友人などを通じ、戦中・戦後を体験した世代にも拡がり、世代間の交流も始まっているようです。

広島市出身の漫画家・杜野亜希先生のツイートを許可いただき掲載。

『この世界の片隅に』、広島に住む母も数日前に観に行ったそうです。母は『この世界の片隅に』の晴美さんと同い年。母の父（私の祖父）は出征してフィリピンに。このせかの鬼いちゃんのエピソードは彼とそっくりです。

だからか母は戦争物はほとんど観ないのに。

母「上映館が少ないので、府中のイオンモールまで行きました。戦争映画はめったに行くことないけど、いい映画でしたね。物語は悲惨なのに全編ほのぼのと、優しさがあふれ、後の気分もよかったです。

友人４人に推薦、今日よかったとメールもらいましたよ。」

した光景。あのまわりで遊んでました。ぱりぱりと音立てて乾きます。

呉は両親が入院して母方の祖父母の家に預けられてて一番思い出深い場所。まだ防空壕がありましたよ。私のときは無かったけど姉達は進駐軍の基地にクリスマスパーティーに行ってた。婆はハウスキーパーで働いてた。

なんかすべてが懐かしく、教えてくださって感謝です。」

更に、そのお友達Ｉさんからのメールを転送してくれました。

Ｉさんは昭和 28 年生まれ。一番上のお姉さんが昭和 20 年生まれだそうです。

Ｉさん「姉たちに薦めたらとっくに本は買って読んで、上姉は呉美術館まで足を運んだ由。江波港の松の木は友達の家の松。江波の漁協の裏が我が家でした。海苔をすいて干すのは毎日見てた。そしてあの干

間接的にだけど、貴重なお話を伺いました。映画がなければ、こういうお話は伺えなかったと思います。

母が昨日お会いした方（昭和 7 年生）も呉出身で、今だからこの映画の話に…そして戦時中の話になったそうです。『この世界の片隅に』、単にエンタメとして素敵なんですが、自然とそういうきっかけになるのはすごいことですね。

NPO 広島アニメーションシティ理事で、「この世界の片隅に」を支援する呉・広島の会のメンバーでもある松浦妙子さんの寄稿

この映画は「すずさん」という女性が見た範囲の世界のできごとを表現しています。丹念な取材に基づいて作られたことに加え、観客に受け止め方を全面的に委ねる誠実さも兼ね備えています。

映画は観客が物語を受け止めて完成します。観客ひとりひとりが登場人物の生き方や心情を自分に引き寄せて考え、あるいは画面の中に自分に繋がる人を見つけるようです。そして、ひとりひとりが自分なりに見つけたものごとを、ふと、誰か近しい人に話したくなってしまう。そんな雰囲気を醸し出す何かを、映画『この世界の片隅に』は持っています。

全ての人がそのように話せる訳ではないかもしれませんが、体験伝承する取組みを始めている広島にとって、何かきっかけとなる力を持つように思います。

戦後 71 年、多くの出来事が起きた 2016 年の広島・呉にとって、その大切なひとつとなったこの映画からは、戦争や当時の様子・人々の暮らし・想いなど、失われたもの失われようとしているものを“考える”ことに気づかされます。戦後 70 年で何かが終わるのではなく、2016 年は訪れ、さらに 2017 年…と、日々続いていくことをあらためて考えさせられます。

エンディングテーマ『たんぽぽ』で、こんな歌詞が歌われます。

「あなたにはこの世界　どんな風に見えますか」

この映画の後、広島や呉という地域に対する見方、考え方は深まって行くでしょう。長く見続けていきたいと思います。

▷公式サイト　http://www.konosekai.jp/

画像　© こうの史代・双葉社／「この世界の片隅に」製作委員会

● Report　横川ゾンビナイト２ ～今年も横川にゾンビ達が大集合！～

2016 年 10 月 29 日（土）・30 日（日）に広島市西区の横川商店街周辺で横川ゾンビナイト２（supported by 広創不動産）が開催され、二日間の期間中、約 18,500 人の参加者で賑わいました。横川商店街の活性化とクリエイターの活躍の場を広げることを目指し、昨年から横川商店街関係者と広島メディア芸術振興プロジェクト会議などが連携して実施されました。２回目となる今回はさらにパワーアップ。たくさんの若手クリエイターやボランティア、大学生などが活躍。商店街や学区関係者による屋台も多く出店され、参加した家族連れなども楽しめるイベントになりました。

主催：横川ゾンビナイト２実行委員会
（横川商店街振興組合、横川商店街連合会、NPO 法人広島横川スポーツ・カルチャークラブ、広島メディア芸術振興プロジェクト会議、西区民文化センター）

特集2 第 16 回　広島国際アニメーションフェスティバル HIROSHIMA2016 を振り返る

第 16 回広島国際アニメーションフェスティバルが、2016 年 8 月 18 日から 22 日まで、JMS アステールプラザ（広島市中区加古町）において国内外から多数のゲストをお迎えし、盛大に開催されました（延べ入場者数 33,129 人）。このフェスティバルは、愛と平和の精神のもと、国際平和文化都市を掲げる広島市で 1985 年の第 1 回大会から数えて今回で 16 回目の開催となりました。世界 4 大アニメーション映画祭の一つに数えられ、また、アカデミー賞の公認映画祭として国内外から高く評価されています。

第 16 回大会では世界の 78 か国・地域から集まった 2,248 作品（過去最多）の応募作品の中から選考審査を通過した 60 作品（25 か国）が、コンペティション（公開審査）によって審査され、グランプリやヒロシマ賞、木下蓮三賞など 17 作品が入賞しました。

グランプリに輝いたのは、ダヒ　チョン監督（大韓民国／フランス）の『空き部屋』。ヒロシマ賞にはアンナ　ブダノヴァ監督（ロシア）の『アモング　ザ　ブラック　ウェーヴズ』が、また、木下蓮三賞にはダヴィッド　コカール　ダソ監督（フランス）の『ペリフェリア』が選出。日本の作品では、優秀賞に山村浩二監督の『サティの「パラード」』が選出されるなど、3 作品が入賞しました。

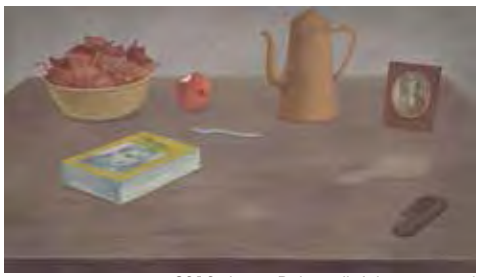
フェスティバルではコンペティションの他に、国内外の有名作家作品や世界の優秀作品、子ども向け作品など充実した内容の特別プログラムも特徴です。今回は大会の国際名誉会長ジャン＝フランソワ　ラギオニー氏の作品上映や『映画界の冒険家 カ レル・ゼマン』などアジアプレミアとなる長編作品の上映、ピクサー最新短編作品『ひな鳥の冒険』の上映とセミナーやカートゥーンネットワークのセミナー、国別特集として初めて 日本を特集した日本アニメーション大特集など、期間中 62 プログラム 534 作品が上映されました。さらに、サブイベントも充実。この映画祭の設立者である木下蓮三氏の作品展などの各種展示、国内の主要なアニメーショ ンの教育機関 (13 校) がブース出展した「エデュケーショナル・フィルム・マーケット」、子どもたちを対象としたアニメーションワークショップ「キッズ・クリップ」、学生向けのシンポジウムやセミナー、プロを目指す若手の発表の場「フレーム・イン」、プロのための 作品持ち込みやビジネス交流の場である「ネクサス・ポイント」など 9 イベントも実施されました。

受賞作品 ～アニメーションというアートの未来への道を照らす珠玉の作品！～

●グランプリ●

『空き部屋』（The empty） ダヒ チョン／ Dahee Jeong
（制作国名：大韓民国 / フランス ）

［受賞の理由］繊細で洗練された名作です。愛する人が去ってしまった空虚な場所を表現しています。

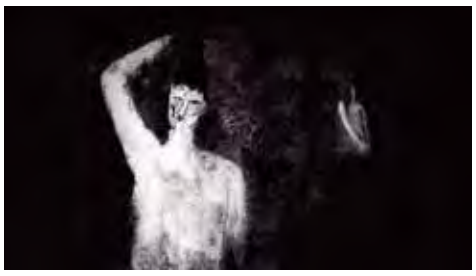


© 2016. Jeong Dahee all rights reserved

●ヒロシマ賞●

『アモング ザ ブラック ウェーヴズ』（Among the black waves）
アンナ ブダノヴァ／ Anna Budanova（制作国名：ロシア）

［受賞の理由］監督の才気あふれる演出とデザインが光る作品です。自由を奪われた愛の顛末を描いています。



●デビュー賞

© Kazak Productions

『ユル アンド ザ スネーク』（Yùl and the Snake）
ガブリエル アレル／ Gabriel Harel
（制作国名：フランス）

●木下蓮三賞

『ペリフェリア』（Peripheria）
ダヴィッド コカール ダソ／ David Coquard Dassault
（制作国名：フランス ）

●観客賞

『ザ ゴッサマー』（The Gossamer）
ナターリア チェルニェソヴァ／ Natalia Chernysheva
（制作国名：ロシア）

多彩な関連イベントで海外からのゲストをおもてなし

広島国際アニメーションフェスティバルには国内外からアニメーション作家や映像制作関係者など多くのゲストが広島に来訪されます。こうしたことから多くのボランティアの協力を得てゲストをもてなし、交流をはかる多彩なプログラムが行われました。各種交流会をはじめ、日本文化体験や被爆の実相に触れる「ヒロシマ体験ツアー」、タカノ橋商店街での市民パーティーが開催されたほか、今回は伝統的な街並みが残る竹原市での地域文化・交流事業なども行われ、広島の魅力発信につなげています。

Report　世界の優れたアニメーション作品を紹介〜国際アニメーション・デー 2016in 広島

世界の優れたアニメーション作品を紹介する「国際アニメーション･デー 2016 in 広島」が広島国際アニメーションフェスティバル実行委員会等の主催（ASIFA-JAPAN 共催）により、10 月から 11 月にかけ、横川シネマ（10 月 22 日）、広島市映像文化ライブラリー（10 月 28 日）、 広島市現代美術館（10 月 29 日）、道 の駅たけはら（11 月 5 日）､合人社ウェンディひと･まちプラザ（11 月 8 日）の 5 会場で開催されました。過去の広島国際アニメーションフェスティバル受賞作品およびコンペティションの中から選りすぐりの作品に、参加した多くの観客が魅了されました。

会場の様子（合人社ウェンディひと･まちプラザ）

アニメーションを通じ、地域交流の輪広がる

2005 年から開催されているこの上映会。今回は初めて竹原市でも行われました。地元竹原で映像文化や地域振興に関心のある方々も多く参加されました。上映会終了後は、広島市方面から の参加者と一緒に、会場の「道の駅たけはら」から町並み保存地区周辺を散策しながら交流を行いました。

竹原の街並みを散策しながらの交流

学生による最新アニメーション作品の上映会
広島国際アニメーションフェスティバル応援事業･ICAF2016

大学や専門学校などの教育機関で制作されたアニメーション作品を上映するインターカレッジ･アニメーション･フェスティバル（ＩＣＡＦ）2016 が昨年に続いて広島にやってきました。11 月 26 日（土）、横川シネマを会場に全国の学生による 71 作品を上映。さらに広島特集として広島市立大学、比治山短期大学部、尾道市立大学の学生による上映とトークも行われ、会場は若い才能を応援する延べ約 250 名の参加者の熱気に包まれました。

Event Information 1

メディア芸術系の大学・短大・専門学校　卒業制作展・イベント特集

比治山大学短期大学部　美術科　本科
比治山大学短期大学部美術科 50 周年記念　第 49 回卒業制作展　第 15 回修了制作展
広島県立美術館／県民ギャラリー（広島市中区上幟町 2-22）
2017 年 1 月 17 日 (火) ～2017 年 1 月 22 日 (日)　9：00-19：00

広島市立大学　芸術学部　第 20 回卒展・修了作品展
旧日本銀行広島支店（広島市中区袋町 5-21）
合人社ウェンディひと・まちプラザ（広島市中区袋町 6-36）
広島市立大学芸術学部棟（広島市安佐南区大塚東 3-4-1）
2017 年 2 月 10 日（金）～2 月 14 日（火）　10：00-17：00（入場 16：30 まで）

広島国際学院大学　情報デザイン学科　第 10 回卒業研究・卒業制作展
ＪＭＳアステールプラザ／市民ギャラリー（広島市中区加古町 4-17）
2017 年 2 月 17 日（金）～20 日（月）　10：00-19：00　（最終日 15：00 まで）

穴吹デザイン専門学校　卒業修了制作展 2017
県立美術館／県民ギャラリー
2017 年 3 月 14 日 (火) ～2017 年 3 月 19 日 (日)　9：00-17：00

広島コンピュータ専門学校　学生作品展 2017
広島コンピュータ専門学校（広島市西区横川新町 7-12）
2017 年 1 月 20 日（金）～1 月 22 日（日）　10：00-16：00（最終日 14：00 まで）

総合学園ヒューマンアカデミー広島校　ぷち !!　ひろしまゲームスタジアムⅡ
総合学園ヒューマンアカデミー広島校（広島市中区鉄砲町 8-18）
2017 年 2 月 11 日 (土)　10：00-17：00
クリエイターセミナー / 企業説明会、作品展示、ゲームコンテスト「鯉杯（こいかっぷ）」など。
広島県内の学生であれば誰でも参加可能。

広島情報専門学校　卒業研究発表会
南区民文化センター（広島市南区比治山本町 13-27）
2017 年 2 月 19 日（日）　10：30-15：30

Event Information 2

ひろしま映像ショーケース

2017 年 3 月 11 日（土）・12 日（日）
広島市映像文化ライブラリー　（広島市中区基町 3-1）
※　詳細は、後日、広島市映像文化ライブラリーＨＰ等で紹介予定

発行日：2016 年 12 月 20 日　発行部数：6000 部　発行：広島市市民局文化スポーツ部文化振興課
編集：NPO 法人広島アニメーションシティ（HAC）　デザイン：広島国際学院大学 情報文化学部 岡川研究室・藤尾 晴香・山本 千晶
【紙面についてのお問合せ】NPO 法人広島アニメーションシティ事務局
〒739 - 0321　広島市安芸区中野 6 - 20 - 1　広島国際学院大学 情報文化学部 谷口研究室内
http://hac.or.jp　Email：hac-jimu@hac.or.jp　TEL：082 - 820 - 2710 ／ FAX：082 - 820 - 2723

メディア芸術に関する情報やご意見を募集しています

平成２８年度　文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業